

2021年度先生のための気象教育セミナー実施報告

教育と普及委員会

教育と普及委員会では、活動目標の一つである「学校教育における気象学・大気科学の充実促進」を図るため、気象が専門ではないが、教えなくてはならない先生方の悩みに応えることを目的とした気象教育懇談会を2016年度より実施している。

2021年度は、「自然を知り、災害から命を守る」をテーマに港区立みなと科学館を会場として行う予定であったが、2年ぶりの対面開催ということで人気が高く、多くの応募者を集めたため、気象庁講堂をお借りしての実施となった。しかし、直前の新型コロナウイルスオミクロン株感染急拡大を受け、荒木健太郎講師の講演は、オンライン講演を気象庁講堂で視聴する形となった。当初44名の参加希望があったが、遠方からの参加者は参加困難となる方が多く、参加者は38名となった。対面開催が危惧される中であったが、参加者同士の距離の確保、アクリル板の設置等、万全の感染対策のもとで実施した。

1. 概要

開催日時及び場所

2022年1月9日（日）13：30～17：00

会場：気象庁講堂

内容

- (1) 雲を愛する技術
講師：荒木健太郎（気象庁気象研究所）
- (2) 地震・津波の話
講師：福満修一郎（気象庁地震火山部地震津波監視課）
- (3) キャスターと学ぶ、防災の伝え方
講師：南 利幸（気象キャスター）

参加者

中学校・高等学校教員他 38名

2. 実施状況

今回、感染拡大が一段落したと見えたこと、日程が連休中であったことから、関東以外からの参加者も含め、44名の参加希望があった。当初、港区立みなと科学館の実験室を会場とする予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、より広い気象

庁講堂をお借りして実施することとなった。しかし、直前にオミクロン株の感染急拡大が懸念されたことから、遠方の参加者からはキャンセルが相次ぎ、また荒木講師の講演もオンラインで行い、会場で拝聴することとなった。

当日は、平松委員長の開催挨拶の後、オンラインで荒木講師の「雲を愛する技術」についての講演があった（第1図）。テキストとして荒木講師の著書が配布され、それも活用しての講義であった。画面越しではあったが、様々な気象現象が紹介され、また、教員としてどのように気象情報を授業に活かせるかという観点でのお話であった。話題が次々と出て、予定時間をオーバーしての講演であったが、参加者は時間も忘れてお話に引き込まれているようであった。

次いで、気象庁地震火山部の福満講師より、地震・津波の話というテーマでの講演があった（第2図）。本セミナーで地震や津波についての内容を扱うのは、これが初めてである。最近活動している火山についても触れられ、興味深い内容であった。

さらに南講師による「キャスターと学ぶ、防災の伝え方」の講義が行われた（第3図）。気象警報が発表された場合の対応について、保護者の立場で混乱する例をあげ、それに対する情報の求め方や対応について紹介された。また、最近発生した災害について紹介され、災害時に教員としてすべきことは何かについて、認識を新たにできる機会となった。



第1図 荒木講師のオンライン講演。



第2図 福満講師「地震・津波の話」。



第3図 南講師「キャスターと学ぶ防災」。

3. 成果など

受講者に行ったアンケートの結果から、どの講義も興味深いとの回答を得た。今回は、地理との関連も考え、社会科の先生方にも案内をお願いしたところ、数名であるが社会科の先生の参加もあった。温暖化も含め、社会科、特に地理との関連は大きいので、今後さらに社会科の先生方への声かけも行っていく方針である。

内容の希望としては、例年同様「簡単な教材作成」が最も多く、次いで「防災」となっていた。今後も引き続き、同じようなテーマで異なる切り口のセミナーを検討したい。

なお、本セミナーは小倉義光・正子基金の補助を受けて行われた。最後に、ご協力いただいた気象庁、港区立みなと科学館に感謝申し上げます。